

パートナーシップおかや

No. 14

岡谷市男女共同参画推進市民の会

「男女共同参画」を改めて見つめ直す

岡谷市社会福祉協議会 事務局長 宮澤 國正



「男女共同参画」が言われて、もう40年以上になるだろうか。世界・日本を問わず、男尊女卑の意識が根底にあり、言葉の上からも、「女々しい」など、否定的ともとれる感覚の言葉も、違和感なく使い生活している人も多いと思われる。

40年前といえば、組合・学生運動などが最盛期のころで、こぶしを握りしめて、自らをアピールした人たちも多かった。さだまさしの「関白宣言」は男尊女卑の最たるものと、ピンクのヘルメットを被り、「糾弾せよ」と叫んでいた人たちは、今

何をしているのか。当時は「男らしい」「女らしい」ということもタブー視するような風潮もあったように思う。身体的な違いは当然あり、「男らしい」は責任感があり潔い、「女らしい」は優しく包容力があるなど「前向きなよいイメージ」で捉えて欲しかった。何でも平等と叫ぶことに、ひねくれものの私は大いに反感を覚えたものである。

現在、カルチャー、ボランティア、文化活動などで活躍する大半は女性であり、男性の参加は少ないのに、会・グループの代表者となると男性になってしまう。人口の上でも半数以上が女性であるのだから、もっと多くの女性が代表者となって活躍して欲しい。

かつて、「男は炊事に手を出したり、口を挟むべきではない」として、「男子厨房に入らず」と言われたものだが、この由来は中国の『孟子』の中で、「君子、庖厨を遠ざくる也」からきているとのこと。しかし、昨今は、安住の場所が台所という男性諸氏も多いとか。

家庭でも、地域活動でも、お互い相手の存在を意識しながら、やったことがなくても、飛び込み参加することから始まるもの。女性はボケることが少なく長生きするのも、毎日料理の献立を考えているからとの説もある。「男だから、女だから」は置くとして、家庭菜園ひとつとっても「私作る人、あなた採る人」とお互いに納得していればいいと思う。私は、何年か前のサラリーマン川柳「おーいお茶、飲みにおいでと、呼ぶ夫」が好きです。

男女共同参画週間 「パネル展示」行いました (6月23日～29日) 「啓発Pティッシュ」配布しました

本年も、「男女共同参画週間」にちなみ、「パネル展示」をカルチャーセンター催事場にて行いました。

私たちが取り組んでいる活動の様子を記録した「写真と説明文」を中心に、岡谷市内の小・中学生から寄せられた「ポスター(24年度ポスターコンクール入賞作品)」を展示、市民の皆様の意識啓発・高揚を図りました。



岡谷駅前にて「ティッシュ」を配布

また、昨年秋に岡谷市が実施した「働く場における男女の意識調査」の結果から見えてきた「岡谷市の皆さんの『働く場での意識』(市民の会としての考察結果)」についてをパネルにまとめて掲示、市民の皆さんに見ていただきました。

本年も、展示場には会員が常駐し展示物についての質問にお答えするとともに、「市民の会」の活動の趣旨などについて説明、「男女が力を合わせて、これからの社会を築いていくことの必要性」を訴えることが出来ました。来場者の中には「何、まだこんなことをやっているの。こんなこと当たり前のことじゃ」と言われた方もいました。「当たり前のことだからこそ、当たり前のことが永続するよう、不断の努力が必要だと考えていますよ」と、お答えしておきました。

なお、この週間中の6月24日(月)には、岡谷駅前・市内の大型店舗前で「男女共同参画推進啓発ティッシュ」を計500袋配布。週間の意義を市民の皆さんにPRすることが出来ました。

読書を通じて「生涯学習社会」を・・・
読み聞かせて「子どもたちの心を豊かに育みたい」

(小口区) 黒岩末壽子さん

- ☆ “JPIC(出版文化産業振興財団)読書アドバイザー”、“NPO 法人「絵本で子育て」センター絵本講師”、“臨床美術士”・・・等々の肩書きをお持ちの黒岩末壽子(くろいわますこ)さん。
- ☆ 地域での「サークル活動」や子どもたちへの「読み聞かせ」、企業の「社員教育」の実践者・指導者として活躍されています。

☆ご両親に教えられた「読書の楽しみ」 ご家族から触発された「文学の世界への誘い」

5人兄弟姉妹の末子として生まれ、文学に造詣の深かったご両親から「末の壽」と命名された黒岩末壽子さん。ご両親の影響もあり「本好きの少女」として多感な時期を過ごされました。「読書を通じて感じたこと、思ったことを自由に話し合うことを大切にしてくれた家庭に育ち、文字や言葉のもつ力の大きさ・大切さを知りました。」・・・ご自分が「文学を志したルーツ」をこのように述懐されています。

☆黒岩さんのライフワーク・・・「読書を通じて『生涯学習社会』を作っていく」こと

黒岩さんは、JPIC が主催する“養成講座”を平成14年に受講されました。この講座(通信教育とスクーリング)の中で、「本の歴史」「印刷と製本」「出版と流通」「情報収集」「読書推進運動」等、読書や出版等について学ばれました。この講座での学習を通じて、自らの教養を高めるとともに、家庭での子育てや地域サークル活動、企業の社員教育の中で、「読書の効用とそれを広めることの大切さ」を実感されたのでした。

黒岩さんはこれまでに、養成講座の修了生が自主運営する組織「読書アドバイザークラブ(JRAC)」の一員として、病院・図書館・書店・学校等で、学習会や各種研究会の開催、通信の発行等の活動を行ってきました。

最近では、郷土が生んだ歌人島木赤彦の随想集「諏訪湖畔冬の生活」を黒岩さんが代表を務めるサークルの皆さまとともに深く読み解き、研究されました。その成果を、「凍てる碧空(いてるあおぞら)湖畔のひびき」と題した論文(解題文)にまとめられ、「赤彦記念文学祭」(9月21日開催)で発表されました。発表する黒岩さん



また、子どもたちには、「豊かな心と感性を培って欲しい」との願いを込めて、岡谷市内小学校の学童クラブ」等で「読み聞かせ」を継続して実践され、子どもたちからはもとより、お母様方からも慕われています。

“あいとぴあ”主催「男女共同参画フォーラム」開かれる
市民の会、ワークショップ「祖父母のための子や孫とのかかわり方講座」を担当

7月13日(土)、「あいとぴあ」男女共同参画フォーラムが「お父さんの育児で家族が育つ」をテーマに開かれました。



晴天にも恵まれ、県内各地から多くの皆さまが来場され、午前中に行われた「ワークショップ(サブテーマ別に3つの分科会)」、および午後「講演会」(講師:汐見稔幸東大名誉教授)に参加されていました。また、子どもさん連れの来場者に配慮した「アトラクション」、男女共同参画を啓発する「展示」、女性起業家・社会福祉団体等による「物品・食品販売」等も行われ、それぞれ賑わっていました。

市民の会は、ワークショップ「祖父母のための子や孫とのかかわり方講座」を担当。用意された会場がほぼ満席になる 42名の皆さまに参加いただき、活発な発言・意見交換がありました(上写真)。小池喜代さん(市民の会会員)にファシリテーターを、鮎澤光昭さん(元鮎沢区区长)にプレゼンターをお願いし、お二人から貴重な体験談を交えた意見・見解を伺うとともに問題提起をいただきました。鮎澤さんから伺ったお話に会場の空気が和み、小池さんが巧みに参会の皆さまより意見・見解を引き出され、有意義なワークショップとすることが出来ました。

また、午後汐見名誉教授の「講演会」では、「江戸時代は、父親が子育ての中心を担っていた。多忙な母親にだけ育児を任せておくことは、子どもの健やかな精神の成長にとっても好ましいものではない。父親よ、もっと子育てに参加を」との呼びかけに、聴講の皆さまは大きく頷いていました。

「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」開催されました

この「全国会議」は、1991(平成3)年より開催されていますが、1999(平成11)年6月、「男女共同参画社会基本法」が施行されたことにちなみ、以降は「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」と銘打って、毎年6月総理府男女共同参画局の主催で、男女共同参画週間(6月23日～29日)中に東京で開催されています。

平成25年度「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」は、「いまこそ、女性の活躍を！～みんなで考え、みんなで変える！」をスローガン(キャッチフレーズ)に、次の要領・内容で開催され、全国より770人(岡谷市から16人)が参加しました。

開催日時：6月28日(金曜日)午後1時～4時 場所：メルパルクホール東京(東京都港区芝公園)

内 容：①主催者挨拶(森まさ子内閣府特命担当大臣、男女共同参画担当)

②第1部 基調講演(講師：坂東眞理子さん=昭和女子大学学長、「女性の品格」の著者)

演題：「女性の活躍が切り拓く日本の未来」

③第2部 P. ディスカッション (パネリスト5名 司会：飯田香織さん=NHK記者・キャスター)

ポイント=①女性の活躍には何が必要？～意識？風土？制度？ ②企業が女性に求めるものは？ ③学生が感じる不安とは？ ④その他

「全国会議」に参加してきました(参加された皆様から次のような感想を寄せて頂きました)

森まさ子内閣府特命担当大臣が挨拶の中で言われた「女性の活躍は成長戦略」「紅一点では足りない」「あらゆる場・活動で女性の力が必要になってきている」には、つい頷いてしまい、強く印象に残りました。

また、基調講演の中で、坂東眞理子さんは、10年前には内閣府男女共同参画局の局長をされていたようですが、当時の様子を振り返りながら、「以前は男性・女性の役割として、男性は収入を得て家計を支える、女性は家庭を守る『家庭・育児・介護』でしたが、今の時代はそれではいけない。女性がもっと社会に進出して、自分のもてる能力を、自分だけではなく周囲のためにも発揮しないと、社会が立ち行かなくなってきている。」「これからの時代は、女性がリーダーとしての役割を果たすことが期待されている。男性上位にある理工系、法律、経済の分野にも、どんどんと女性が進出して欲しい。」と、穏やかな口調ながらも、檄を飛ばされました。

パネルディスカッションの中で、有限会社モーハウス代表取締役の光畑由佳さんの「仕事と育児は敵ではない」との考え方を形にした産後の「授乳服」の提案(製作)は素晴らしいことと感心しました。女性の能力の発揮の仕方の典型例を見せていただけたと思います。また、中央大学ビジネススクール客員教授で経済評論家でもある勝間和代さんの物事の本質を端的に捉え、確たるご自分の考え・意見(見解)を持っていることに感心しました。その意見(見解)は、私たちにも頷け理解できることばかりでした。

全国会議に参加して「先ず、自分のワークライフミックスは、どうなっているのか見直してみよう」という気持ちが強くなりました。なんとなく流されて日々生活している自分から脱却し、ワークライフバランスを目指して、ワークライフミックス(日常のあり方・生き方)を考え直してみたいと思います。



岡谷市から参加された皆さん

「男女共同参画地域フォーラム in あなん」参加してきました

開催日時：平成25年9月7日(土曜日) 開催場所：阿南文化会館(阿南町)

主 催：実行委員会、長野県男女共同参画推進県民会議、下伊那郡阿南町、長野県

長野県の南端、人口約5000人、自然豊かな下伊那郡阿南町。「一人ひとりの個性が活かされる地域づくり」をテーマに、県内より300人(岡谷市から13人)が集いました。阿南高校吹奏部の爽快な演奏でオープニング。大変澁刺とした元気な演奏でした。

東洋大学名誉教授・神田道子さんより「男女共同参画による地域づくり～女性の参画の重要性～」と題して「自他を尊重し合い、個人として参加から参画へ。自ら地域に出て行かないと新しいものは生まれてこない。よりよい暮らしのために、女性は社会的人材となり、自身のためではなく、男性、子どものために地域における人間関係を築いていきましょう」と話されました。

続いて次の4件の事例発表がありました。①地域おこし協力隊員が玄米パン作りで地域の人々と一緒に活動。②地元の自然を愛する会による環境保全への取り組み。③平和・命の大切さを子供たちに伝えようと動画を作り発表。④都会から移住してきた若いパティシエと共同経営の女性が、地域の食材にこだわった菓子作りで販路拡大に奮闘中。どの事例についても、自由な発想と才覚が、地域の人々と協働し成果を上げていることに感動しました。大きなエールを送りたいと思います。現在、私たちが進めている活動に大いに生かせる場所があると、よい勉強になりました。

(注記：本フォーラムで採択された「フォーラム宣言」は、4ページに掲げてあります。)

「男女共同参画地域フォーラム in あなん」宣言

依然として人びとの意識の中に残っている、男女の地位の不平等感や、男は仕事、女は家庭といった固定的な性別の役割意識を解消し、女性と男性がともに、家庭や地域、職場や学校などの様々な場で、お互いの人権を尊重し、意欲や能力を十分発揮しながら、生きがいをもって暮らすことができる社会をつくるのが重要です。

こうした男女共同参画社会の実現に向け、私たちは次の目標を掲げ、社会のあらゆる場面をとらえて、男女共同参画社会づくりに取り組んでいくことをここに宣言します。

- 一、一人ひとりが、男女が社会の対等な構成員であり、かけがえのない存在であることを認め、思いやりと支えあいの気持ちを育みながら、お互いを尊重します。
- 一、地域における方針決定過程への女性の参画を促進するとともに、一人ひとりが、各々の意欲と能力を活かしながら、男女共同参画の視点をもって、地域おこし・まちづくり、地域防災など、地域社会の様々な活動に取り組みます。
- 一、子育てしやすい環境など、女性が働きやすい仕組みを社会全体で整え、豊かで誰もが活躍できる社会を築いて、次の世代へと引き継ぎます。

平成25年9月7日

男女共同参画地域フォーラム in あなん

小・中学生「ポスターコンクール」 審査会が開かれました

岡谷市と市教育委員会、市民の会は、9月13日、「男女共同参画社会づくりポスターコンクール」の審査会を市庁舎大会議室で開きました。

今年は小学生の部に101点、中学生の部に50点計151点と、多くの作品が寄せられました。力作揃いの作品を前に、審査にあたられた先生方(岩下教育長、小池川岸小学校長、伊藤小井川小学校長、小口企画政策部長、他)は、しばし相談されながら慎重に審査を進められ、小学生、中学生の部毎に、最優秀作品(各1点)、優秀作品(各2点)、入賞作品(小学生6点、中学生4点)の合わせて16点の作品を選定して下さいました。

なお、表彰式は10月7日(月)、保護者の方々にも参列していただき、市庁舎大会議室で行われることになっています。

【お知らせ】

当面、次のような行事や企画が計画されています。奮って参加しましょう。

☆日本女性会議2013あなん

日時) 10月11日～13日(金～日)

会場) 阿南市スポーツC(徳島県)

☆男女共同参画推進県民大会

＝講演とパネルディスカッション＝

日時) 11月9日(土) 12:30～

会場) Mウィング(松本市)

☆男女共同参画「おかや市民のつどい」

日時) 12月7日(土) 13:00～

会場) カノラホール(小ホール)

男女共同参画「おかや市民のつどい」 準備進む

多くの市民の皆さまにご参加いただけますよう
積極的に呼び掛けて参りましょう!

恒例の「男女共同参画おかや市民のつどい」の準備が進んでいます。本年度は12月7日(土)、カノラホール(小ホール)を会場に開催されます。

岡谷市内の各種団体役員・有志総勢20名の皆さまが「実行委員」として名乗り出て下さり、6月初めには実行委員会が立ち上がりました。実行委員会の事務局は岡谷市企画政策部企画課(男女共同参画担当)に置かれています。

6月7日(金)には、実行委員会初会合が開かれ、実行委員長を選ぶとともに、平成25年度の「市民のつどい」の概要、内容について論議されました。

「実行委員会が企画・立案・運営していく」ことを確認した後、内容・企画について検討されました。その結果、第一部は「中学生に作文発表をお願いし、それを素材に参会者間でディスカッションする」。第二部は「外部講師による講演会＝講師の候補は①「少子化と男女共同参画」を説く講師、②「老いる」ことを前向きに捉え有益な提言をしている講師の2人に絞って交渉する」ことが方向として決まりました。

早速、実行委員長・事務局で出演依頼の交渉を行いました。候補に挙げられた講師2人には、すでにスケジュールが入っており、急遽検討し直し「笑福亭松枝さん＝大阪落語会所属の落語家」をお願いすることになりました。笑福亭松枝さんは「夫婦の絆、地域の絆 共同参画で四角じゃない丸い社会」と題して、講演される予定です。

なお、第2回実行委員会を9月27日に開催、具体的な準備に入ることになっています。